

自転車ロードレースのJプロツアー（JPT）第12戦「石川ロード」は14日、福島県石川町・浅川町周回コース（全長102.2キロ）で行われ、宇都宮ブリッツェンの岡篤志が2時間36分46秒で今季3勝目を飾った。ブリッツェン勢としては今季4勝目で、同レースは3年連続で制した。1周13.6キロのコースを7周して争った。ブリッツェン勢はメイン集団をコントロールし、逃げ集団とのタイム差を1分以内に

JPT第12戦
自伝記

維持。残り2周からペースアップして逃げ集団を吸収した。最後は約20人の集団スプリントを岡が制し、ツアーの個人総合首位を死守した。那須ブラーゼンが西尾勇人の14位、ホンダ栃木は阿部航大の42位がチーム最高だった。JPT第13、14戦は27、28の両日、栃木市の渡良瀬遊水地でチームタイムトライアルと個人タイムトライアルを行う。

岡 終盤一気

今季3勝目

ブリッツェン勢 3年連続制す

個人総合首位の証しである赤の「プロライダーシャワー」に身を包んだブリッツェンの岡篤志が、称号に恥じない走りでも前週の勝利に続く今季3勝目。「自分のために全員が犠牲となって走ってくれた。報いることができなくて悔しい」。エースの重圧から解放された、声を弾ませた。

2年連続でブリッツェン勢が制している相性のいいコース。チームは鈴木龍が勝利した前回同様、残り2周まで集団をコントロールし、アタックからの逃げ切りを想定。終盤までは狙い通りの展開となったが、ペースアップしてもライバルを絞り込めなかった。

そんな中で岡の冷静な判断が光った。逃げに追い付いた後、さらにアタックする余力はないと分析すると、「最後まで走らない走りはない」とメイン集団に再び合流。鈴木龍らのアシストを受け、スプリントに備え力を温存し、最終コーナーの上りで一気に飛び出した。

清水裕司監督が「コンディションをコントロールできるよになった」と成長を認め、今季は「今までで一番調子」と自負する。一方で、6月の日本選手権では「序盤から動きすぎた」と長距離に耐え切れず

ハイライト

途中棄権。「実力を理解する」との重みを痛感し、主戦場での勝利にこだわった。21日には東京五輪のコースを走る。

テスト大会出場。「海外勢についていけるか試したが楽しみ。成長曲線はまだまた上昇する。」（三谷千春）

冷静な判断、勝利呼ぶ



今季3勝目を挙げ、ガッツポーズをする宇都宮ブリッツェンの岡篤志。福島県内、小森信彦さん撮影

① 岡 2時間36分46秒
② 那須ブラーゼン 2時間37分00秒
③ 西尾勇人 2時間37分10秒
④ 阿部航大 2時間37分20秒
⑤ 本田大輔 2時間37分30秒
⑥ 増田幸司 2時間37分40秒
⑦ 本田大輔 2時間37分50秒
⑧ 本田大輔 2時間38分00秒
⑨ 本田大輔 2時間38分10秒
⑩ 本田大輔 2時間38分20秒
⑪ 本田大輔 2時間38分30秒
⑫ 本田大輔 2時間38分40秒
⑬ 本田大輔 2時間38分50秒
⑭ 本田大輔 2時間39分00秒
⑮ 本田大輔 2時間39分10秒
⑯ 本田大輔 2時間39分20秒
⑰ 本田大輔 2時間39分30秒
⑱ 本田大輔 2時間39分40秒
⑲ 本田大輔 2時間39分50秒
⑳ 本田大輔 2時間40分00秒

ナ、ハルグリブ、オーストリ、ア、ハイブリッド、2000、d、(2)橋本選手(前走ベール)以上1時間13分51秒の伊藤晋菜

一人のエース役だった中村選手は雨中での位置取りで消耗し、アシスト勢も脱落。ロードレースに欠かせない連係を見られず終わった。下尾将輝主将が体調不良で脱落。選手たちも苦しいチーム事情。西尾勇人は「自分がもっと強くなれない」と決意を固めた。

連係なく勝負絡めず
○：那須ブラーゼンのエース西尾勇人は勝負に絡めず14位。「アシスト不足。単独での戦いを強いてしまった。今季いまだに表彰台が遠く、岩井航太とラルマネスジャは肩を落とした。」
「終盤のペースアップで生き残れたのは好調を維持する西尾勇だけ。もう